

常総市在宅医療・介護連携電子ネットワーク事業に関する事項  
(電子@連絡帳 JOSO システム)

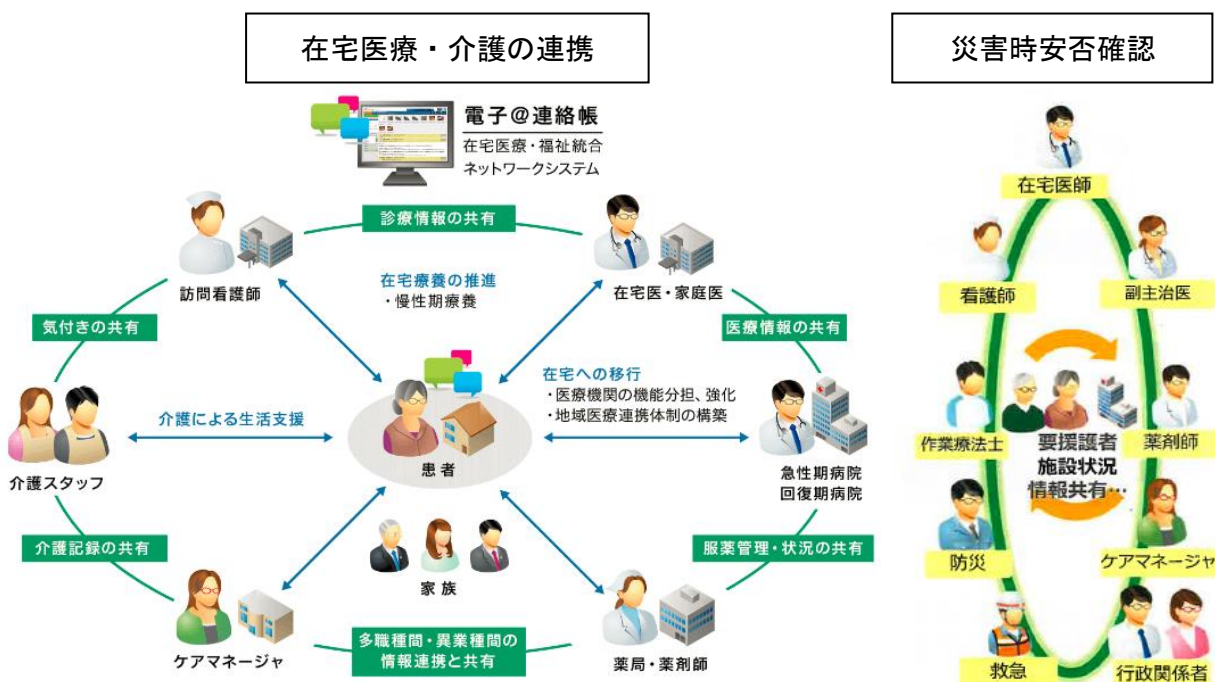
この事業は、地域の医療・介護関係者の情報共有を支援する地域支援事業として行われるものです。

対象者を支援する医療機関や介護サービス事業者が、それぞれ保有する情報を共有し、連携するために利用する在宅医療・介護連携電子ネットワークシステム（以下「電子@連絡帳 JOSO システム」という）は、支援対象者となる個人情報の保護を厳重に図りながら、医療機関や介護サービス事業者が、コンピュータネットワーク技術を活用し、診療・検査や日々のケア等から得られたそれぞれの情報を共有することで多職種連携を図り、支援対象者に質の高い医療・介護サービスを提供することを目的としています。

また、多職種連携を実施する場合は、連携する医療機関の担当医師，看護師，介護サービス事業者の担当者等を利用者として支援対象者とその家族に通知いたします。

合わせて、災害発生により命にかかわる緊急時と判断される場合において、電子@連絡帳 JOSO システムは要介護認定者等安否確認対象者情報として利用されます。安否確認を行う検索者に対し、安否確認・検索期間中に限り登録者の住所・氏名・生年月日などの基本情報の開示を行うためのものです。

電子@連絡帳 JOSO システムのイメージ



【想定事例1】

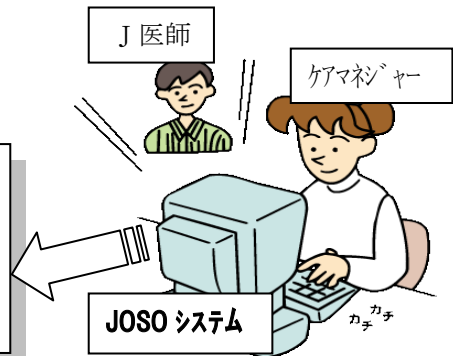
最近、もの忘れが気になり出した一人暮らしのAさん。  
時々、どの薬を、いつ飲めば良いのか  
解らなくなることもあります。

どれだっけ？  
何個だっけな？

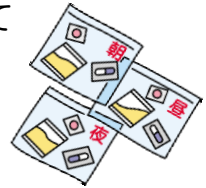


ケアマネジャーは『JOSOシステム』を使って、  
かかりつけ医のJ医師に報告をしました。

J先生へ  
Aさん、時々、お薬が解らなくなる時があるようです。  
いつ、どのお薬を飲むのか？きちんと飲んだか不安に  
なることもあるようです。



次の診察日、J医師から「お薬をひとつにまとめて  
みましょうか？」と提案されたAさん。医師から  
聞かれたので、気になっていたもの忘れも、  
医師に相談することができました。



【想定事例2】

一人暮らしのBさん。近所に身寄りはなく、息子さんも親戚も遠方に  
住んでいます。デイサービスを利用中に、大きな地震が発生。  
Bさんの息子さんは、安否を確認したくて自宅やケアマネジャーに  
連絡をしますが電話がつながりません。

※被災地には、外部からの電話が集中するためかかりにくくなります。

おふくろ、  
無事かな？



Bさんが通っているデイサービスでは、『JOSOシステム』に加入して  
いるので、タブレットの『JOSOシステム』を使用し、Bさんの無事を  
ケアマネジャーに報告。ケアマネジャーから息子さんに連絡が入りました。

※被災地側からは、比較的つながりやすくなります。

ケアマネジャーさんへ  
Bさんはデイサービス利用中です。おケガもなく無事すごされています。  
息子さんへのご連絡をお願いします。

